

設楽ダム建設事業環境影響評価

第3回技術検討委員会 議事概要

議事概要

(調査範囲)

- 委員：調査範囲の説明に関して、「希釈される」という説明であったが、どの程度希釈されれば影響が小さくなると言えるのか、基準や根拠のようなものはあるのか。影響の大小に関しては、具体的なデータを示して頂きたい。
- 事務局：他の事例等から、ダム集水域の3倍ぐらいの集水面積あれば、ダムによる直接的な影響がかなり緩和されるのではないかという知見から考えている。
- 委員：調査範囲の説明に関して、水質だけではなく土砂に関する検討が必要ではないか。
- 委員：山地からの土砂の流出に関しては、植生の管理状態等も勘案する必要がある。
- 事務局：地形、地質、植生の有無等のパラメータを用いた堆砂計算の手法により、ダム下流支川からの流砂量等を推定する。
- 委員：ダム下流の調査範囲については、植生に関しては、流況の変化が問題となる。
- 委員：方法書として布里地点までを水環境の調査、予測の地域とすることに特に異論は無い。
- 委員：様々な評価対象に対して、ダム事業によりどのような変化が生じるのか検討し、環境影響の評価時に、総合的に判断する必要がある。
- 委員：もう少し根拠を示せば、考える上でも、対外的にも説明が付くのではないかと思う。

(植生)

- 委員：知事意見に「植生や林相等の現況についても、具体的に記載すること。」とあるが、林相では現況を曖昧に捉えることとなる。
- 事務局：真意を確認する。準備書のとりまとめに当たっては、植生の現況を記載する方針である
- 委員：植物の重要な群落について、方法書では、位置が明確でないものも取り扱っている。取り扱った条件を確認したい。
- 事務局：文献や既往調査による情報から、豊川の布里地点上流域に分布する可能性のあるものを記載した。これらの情報をもとに、現地調査や文献記載者への聞き取りを行っており、準備書のとりまとめに当たっては、位置が明確なものについて予測、評価を行っていく。
- 委員：住民意見に植物の重要な種に関する意見があるが、どのような種をどのように保全するのか、理念を整理する必要がある。その際に地元の植物に詳しい専門家等に意見を聞くのも一つの方法である。
- 事務局：個々の重要な種に対する保全の理念に関しては、準備書のとりまとめに際し、今後検討を進め、地元の専門家等に意見を聞くなど整理していく。